

ログハウスの保守点検

面倒なようですが、この保守点検をすることによって建物の耐久性に大きく影響します。大切に使えば、北欧やカナダなどログハウス先進国では建築後100年以上のものが立派に使用されています。

* 建築1年後（セルフビルドの場合）

建築して1年になりましたら、建物のコーナーに使用している通しボルトの増し締めをします。ロフトつきの場合、1年目は1～1.5cmは緩んでいると思われます。ボルトの緩みは3年ほどで（木材が完全に乾燥して）落ち着きます。業者が建築した場合、1年ごとの点検時にこの通しボルトのまし締めは、サービスで行ってくれます。

* ログ壁の塗装（ログハウス施工マニュアルより抜粋）

ログの塗装は、カビや腐食防止のために専用の浸透性塗料を塗布します。アレルギーに敏感な方には自然素材を原料にしたものも市販されています。人体に有害な「ホルムアルデヒド」が発生しないものが必需です。輸入品、国産品とも色も各種あります。使用前に缶をよく振って攪拌し（顔料などが沈殿しているので）粘度が薄く、パイン材は染み込みにくいものですから、刷毛を充分しごいて少しづつつけて、薄くのばすように塗るのがコツです。刷毛に塗料を沢山含ませると仕上がりが乾燥後「ムラ」になります。一般的に刷毛塗りですが、吹きつけ塗装も可能なものも販売されています。

塗料がつきすぎてむらの部分ある場合は、すぐにさらに刷毛でうすくのばすと綺麗に仕上がります。刷毛には少しつけて「薄く塗る」ことを心がけると美しく仕上がります。

完全に乾燥後（春、夏は、24～48時間後）2度塗りします。2度塗りが普通ですが一度塗りでもよいものも販売されています。ログの断面（切口）は、水分を吸い込みやすく腐食もしやすいので、この部分は「たっぷり」と吸い込ませます。

建物の壁塗装時に面倒で手をぬく場合がありがちですが、日本は湿度が高いので屋外部分にはすべての個所の塗装をお奨めします。特に天井にカビが生えて、かび臭くなったり、色が黒くなったりすることがありますので、壁と同色か透明の「クリアー」などの塗装をお奨めします。

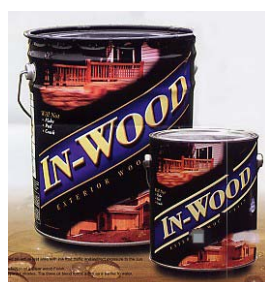
室内壁の塗装は特に必要がないと思われます。（特に汚れやすい部分以外は）

床板の塗装

床板は汚れやすく取れつきやすいので床用のニス塗料をお勧めします。水性のものもあり、安全性も高く、使用後の刷毛なども水で洗えます。

* 建築後の再塗装

再塗装ですが、経験上、1年で塗り重ねをする必要はないと思います。ただ、直接雨が当たる部分などは（階段やテラスの手すりなど）はこまめに塗っておくと耐久力が違います。2度目の塗装は建築後、3年目程度、その後は5～7年ごとに部分塗装、もしくは全塗装をお奨めします。（この塗装は業者建築でも有料になります。）



* その他の点検部分

ログに「ムク材」を使用している場合、どうしても乾燥して割れが発生します。気になる場合や大きく割れている部分には専用の「パテ」で埋めます。小さい割れは「コーキング」で充分です。

その他、水道、電気、トイレ、浴室など日常暮らしていて不便さや問題点、トラブルがある場合は、点検時以外でも修理をする必要があります。